

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	長寿健康福祉論	<p>（概要）本科目は博士前期課程の「保健医療福祉概論」を基盤とし、埼玉県の高齢社会課題について、住民の健康を支援するための保健医療福祉における課題解決策を学ぶ。大都市近郊都市から過疎地域の住民の健康情報、生活圏の調査、国民栄養調査などから、本学の看護、リハビリテーション、健康福祉の各領域が対応すべき課題について討議し、埼玉県民の長寿健康福祉の教育、研究、実践の改善のアイデアを提案できるようになることを目指す。また、博士前期課程における「保健医療福祉概論」のティーチングアシスタントとして後輩の学修支援を行える能力水準を目標とする。（科目責任者：<u>10</u> 萱場一則）</p> <p>【共同 全15回】 <u>10</u> 萱場一則/9回） 大都市近郊に居住する高齢者が感じる生活圏、国民栄養調査の解析による「健康日本21」目標達成の予測、高血圧と脳血管疾患発症の危険性とその対策、循環器疾患の発生と健康状態、職種、社会格差をとらえる福祉的視野について解説し、長寿健康福祉の支援策作成を演習する。</p> <p><u>10</u> 萱場一則・<u>15</u> 延原弘章/2回）（共同） 地域住民を対象としたコホート研究ではアルコール消費量は男性で総因死亡とJ-shapeな関係である。地域生活でのアルコール使用障害の患者の福祉的支援策について解説し、フィールド体験をもとにしたディスカッションを行う。</p> <p><u>16</u> 原元彦・<u>10</u> 萱場一則/2回）（共同） 難病は障害保健福祉行政の中でも位置づけられており、難病への対応なくして健康を語ることは困難である。神経難病には、運動ニューロン病（筋萎縮性側索硬化症、脊髄性筋萎縮症など）、脊髄小脳変性症（脊髄小脳萎縮症、他系統萎縮症など）、多発性硬化症、重症筋無力症、パーキンソン病、進行性核上性麻痺の治療がある。これらの治療と疫学および医療行政を解説する。</p> <p><u>1</u> 横山恵子・<u>10</u> 萱場一則/2回）（共同） 地域の精神保健福祉の向上を図るため、ACTに対するの役割・機能を解説し、ACT実施機関との連携体制をもつ活動を解説する。埼玉県内のACTの約4年間の活動を整理し、地域精神保健福祉のシステムについて討議する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	加齢神経運動機能論	<p>（概要）加齢や不動による神経・運動機能低下や神経・運動器・呼吸循環器・内分泌・代謝疾患により生じる神経・運動機能障害を臨床神経生理学、内科学、神経薬理学、電気生理学、運動生理学、スポーツ科学などの新たな知見と研究手法を学び、神経運動機能の低下を評価して解析するために必要な神経科学、運動科学的研究法を学ぶ。また、機能低下や障害構造の解析によって得られる結果の解釈、神経・運動機能向上を目的とした介入法への応用、介入の制限や限界についても学ぶ。本科目は博士前期課程の「保健医療福祉演習（保健医療福祉と臨床神経学ⅠおよびⅡ）」を基盤として最新の加齢神経運動機能について学ぶ。（科目責任者：<u>16</u>原元彦）</p> <p>【オムニバス方式 全15回】 <u>16</u>原元彦/7回 運動神経の加齢変化、痙縮の臨床神経学的な知識、運動障害疾患学及び脊髄前角細胞の興奮性に及ぼす影響について学び、臨床研究に必要な研究手法を学ぶ。</p> <p><u>21</u>林弘之/2回 中枢神経系における神経伝達物質の発生に伴う変化と、吸啜や咀嚼運動などの生理作用の変化との関連性、また中枢神経系におけるグリア細胞の役割と、生理的機能発現がニューロン・グリア細胞の関連性について解説する。</p> <p>⑳田中健一/2回 医薬品に関する神経薬理学的知識や技能について及び介入法の基盤となる臨床薬理学的解析法について学ぶ。</p> <p>㉑北畠義典/2回 予防的観点及び治療的観点から身体活動（スポーツ・運動および生活活動）が非感染性疾患に対する効用について学ぶ。</p> <p>㉒室橋郁生/2回 生活習慣病および多段階発がんの発生、変遷、進行過程を学び、両者のテーラーメイド予防に焦点を当てて概説し、運動の予防効果について解説する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	健康科学実証研究法特論	<p>【共同 全15回】 13延原弘章・10萱場一則（共同） （概要）本科目は博士前期課程の「健康福祉科学特論」および「健康福祉評価論」の履修を基礎として学習を進める。健康の維持増進および疾病予防は、個人の健康行動と行政等による集団に対する保健医療施策に影響されるが、健康科学におけるすべての研究成果は、最終的にはヒトにおいて、統計的な手法に依拠して実証的に検討されなければならない。そこで本科目においては、健康科学における実証研究を行う上で必要となる多変量解析を含む統計学などのデータ解析技法およびそれらのデータ収集や研究デザインに関わる疫学、社会調査の方法論について、解説する。加えて実証研究におけるバイアスの制御方法や交絡因子の制御方法について具体的な実例を基に教授する。特に、埼玉县市町村の保健・医療・福祉に関する既存の資料から人口動態統計、医療施設統計、老人保健事業報告、医療費等の保健・医療・福祉に関するデータを収集し、市町村単位にデータベースの作成等について解説する。（科目責任者：10延原弘章）</p>	<p>共同 講義 24時間 演習 6時間</p>

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	社会的排除とソーシャルワーク	<p>（概要）現代社会における様々な健康福祉課題の解決を図る上で、福祉社会が目指すべき社会的包摂とは対峙する貧困・格差等の社会的排除に対し、政策的課題と動向の把握を基盤に多面的かつ包括的な課題認識を持つとともに、排除の対象となりやすい人々への実践的アプローチと、関連施策を含む政策的アプローチを統合するソーシャルワークのあり方を追究する。（科目責任者：11 長友祐三）</p> <p>【オムニバス方式 全15回】 11 長友祐三/8回） 今日の健康福祉課題における社会的排除の実際、社会的排除の結果として、負の連鎖に陥る形で長期化、問題化しやすい格差と貧困の現状と今日的課題から、生活保護制度などの保障内容や水準をどのように設定するか、社会的、倫理的、道徳的な観点から描かれた会的規範を依拠するが、セーフティネットの対象をいかに構想するのかによって、結果的に社会的排除の拡大にもつながることについて考察する。社会的排除の解消に向けたソーシャル実践について、生活保護における自立に向けたソーシャルワークに焦点をあて、相談援助の自治事務としての位置づけや、ワーカーとクライアントの望ましい関係性等に留意しながら、支援プログラムの実践の在り様や課題について検討する。</p> <p>14 伊藤善典/5回） 社会的排除への取組みに向けた保健サービス、高齢者介護サービス、保育サービスなどの保健医療福祉政策の動向を先進諸国の例なども含めて考察する。また国民保健サービスや高齢者介護等に関する制度改革において、英国の取組みや児童の分野や高齢者分野に関する財政支出の削減が行われることにより、新たな格差が生じる可能性や実態について、欧州各国における改革の取組みから、その政策的意図等も含めて考察する。つぎに社会的排除の問題をグローバルな視点から探究していくために、高齢者介護を担う外国人家事労働者に焦点を当て、家族主義と介護サービスとの関連等の視点から、女性の社会進出、政府による入国管理政策等の多面的な視点で、社会的排除につながる要因について考察する。官民一体で取り組む企業と福祉サービスとの連携について学ぶ。</p> <p>11 長友祐三・14 伊藤善典/2回）（共同） 今日の福祉社会が目指すべき社会的排除の解消に向けて、多面的かつ包括的な課題認識を持つことの意義と、排除の対象となりやすい人々への実践的アプローチと、政策的アプローチを統合することのできるソーシャルワークの必要性について考察する。社会的排除を生み出す社会経済的な要因とその解消に向けた実践的、政策的両アプローチを包含するソーシャルワークのあり方について議論し、学生それぞれの問題意識や研究実践課題から、今後の方向性を展望する。</p>	オムニバス・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	精神保健支援論	<p>（概要）市民の精神保健支援のうち、自立支援医療（精神通院医療・更生医療）を中心とした障害者の生活支援に関することをテーマに、支援策の企画調整、精神障害者の医療体制、精神障害者の障害福祉サービス、地域生活支援について学ぶ。精神疾患がどのような地域生活に影響を及ぼすかについては、統合失調症、うつ病および認知症の症候、薬理、画像所見、精神病理などの基本的な知識を講義する。精神障害者に対して、福祉と医療の立場からどのような介入（マネジメント、ケア）や研究が可能かを学び、専門職の実践に資する。（科目責任者：1 横山恵子）</p> <p>【オムニバス方式 全15回】</p> <p>① 横山恵子/8回</p> <p>精神障害者が地域で安心した生活を実現するために、ACT（包括型地域生活支援プログラム）が期待されている。ACTは、重い精神障害者を継続的に、多職種チームで治療的介入や生活支援などのサービスを提供するものである。また精神科患者の支援では家族のバックアップが重要であり欠かせない。精神障がい者家族による家族ピア教育プログラム「家族による家族学習会」、「家族と専門家のための交流会」など精神疾患患者を抱える家族をどのようにサポートするか、また家族会について学び、家族をエンパワメントすることが患者本人の治療に重要であることを理解する。アルコールや薬物使用のある患者について、患者自身が抱えている問題に対し、どのように介入を行うか、リハビリテーションプログラムの実践方法を導入し、治療効果について解説する。</p> <p>②⑩ 河村ちひろ ① 横山恵子/4回（共同）</p> <p>自殺はうつ病やアルコール問題とも密接に絡んでいる。また認知症に医学モデルで介入することは限界がある。精神医学的な介入に加えて、様々な社会資源を用いることが必要である。また自殺の一般論に触れ、自殺のゲートキーパー養成活動などについて学ぶ。加えて精神科患者とのかかわりでは、様々な法律が関係する。大きなものとして精神保健福祉法はあり、最近では医療観察法もある。これらの理解を深め、精神科患者のよりよい支援について考える。</p> <p>②② 佐藤晋爾/3回</p> <p>臨床現場で共通・基盤となるキーワードはサポートであると考えられることから、精神医学的な観点からサポートすることについて理解を深める。統合失調症、うつ病の疫学、症候学、画像所見、薬理学的所見、分子生物学的所見、精神病理の基本的知識を多面的に学ぶ。現在行われている薬物療法をはじめとする身体的な治療介入についての理解を深める。</p>	オムニバス・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	IPWシステム開発論	<p>（概要）本科目は地域住民の健康を支援するために、保健医療福祉領域の専門職業人が医療サービス・介入サービスにおいて連携・協働する、Interprofessional Work（IPW：専門職連携実践）の研究、教育、実践のシステムについて学ぶ。本講義では、本学で取り組むInterprofessional Education（IPE：専門職連携教育）における職種間IPE、大学間IPE、さらに本学に既存の地域専門職連携推進会議が取り組むIPW活動を題材に、その実践のシステムから運用方法を教授する。本科目を修得した者がファシリテーターとして、IPWの組織を構築し、IPWのプランを提案・実践できること、IPWの教育・研究を推進し、他施設間のIPWによるシステム開発ができることを目指す。また、博士前期課程における「IPW論」のティーチングアシスタントとして後人の学修支援を行える能力水準を目標とする。（科目責任者：△7原和彦）</p> <p>【共同 全15回】 △7原和彦/7回） 埼玉県内における専門職連携を推進していくための推進部会・推進会議の方向性や役割について提言することを目的とし、「推進会議で行われている先駆的会議・事業内容を紹介するセミナーの開催」、「推進会議とIPEの取組について、リフレクションを中心とした多面的な質的分析」について解説する。実際に地域専門職部会・推進会議にオブザーバー参加し、職種間連携の実習を行う。</p> <p>⑫ 田口孝行 △7原和彦/6回）（共同） 専門職を目指す者がIPWの能力を発揮し、IPWによる他施設間のシステム開発への理解を深める。保健医療福祉分野におけるIPEとIPEの実践の背景をふまえ、具体的教育プログラム、成果、課題を討議し、IPWの教育、研究、実践の仕組みを考案し、専門職を目指す者のIPW能力開発に理解を深める。</p> <p>△12朝日雅也 △7原和彦2回）（共同） 埼玉県立大学が十数年来にわたって取り組んできた保健医療福祉分野におけるIPEとIPEの実践について、「連携と統合」を素材に、その背景、具体的教育プログラム、成果、課題を解説する。IPWの教育、研究、実践の仕組みを記述し、IPW教育と研究の計画立案を解説する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	次世代育成看護論	<p>(概要) 本科目は博士前期課程の「小児看護援助論」「リプロダクティブヘルス論」等の履修を基礎として学習を進める。わが国の基本政策の一つでもある次世代育成支援について、看護学の視点からその現状と課題の理解を深める。子育て家族の健康増進支援、健康課題を有する子育て家族への健康支援、子育て家族への社会的支援、次世代を育む親となるための支援などに関する研究論文等の文献から現状と課題を明らかにし、課題解決のための研究的アプローチについて教授する。(科目責任者 ②鈴木幸子)</p> <p>【オムニバス方式 全15回】 ②鈴木幸子/9回 子育て家族の健康増進支援に関する課題、次世代を育む親となるための支援に関する課題、健康課題を有する子育て家族への健康支援に関する課題、次世代を育む親となるための支援に関する課題について、特にリプロダクティブヘルス/ライツの視点から、課題解決のためのアプローチについて教授する。</p> <p>④大月恵理子/3回 子育て家族の健康増進支援、次世代を育む親となるための支援に関する課題について、特に家族の関係性の視点から、課題解決のためのアプローチについて教授する。</p> <p>③添田啓子/3回 健康課題を有する子育て家族への健康支援に関する課題について、特に健康課題を持つ子どもの回復を促し、子どものセルフケア・家族のケア能力を高める視点から、課題解決のためのアプローチについて教授する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	環境看護論	<p>（概要）本科目は保健医療サービスのクライアントに対して、環境を調整するという看護の専門的な支援介入やアプローチの特殊性や理論について理解を深める。「人間-環境系」の考え方に基づいた環境調整のあり方や測定の手法、測定用具の開発について討議する。特に、療養環境の調整や、危機的環境移行を支える看護援助や、安全安楽を与える看護技術、さらには看護技術教育方法も含め、クライアントにとってより良い看護実践の発展を目指した学問探求を行う。 （科目責任者：⑥ 佐藤政枝）</p> <p>【共同 全15回】 ⑥ 佐藤政枝/10回 生活環境への支援技術とその理論について、環境看護学の研究手法について講義する。患者ケアに役立ち、保健医療の質の改善に資する医療情報の管理・活用の在り方および、最先端研究について講義する。また、骨折等による運動障害のある患者に対する環境看護の理論と実践を教授する。</p> <p>④ 鈴木玲子・⑥ 佐藤政枝/2回（共同） 患者の移送や体位変換に関する看護人間工学分野およびシミュレーション教育の研究論文を題材に、看護基礎教育、看護専門職教育について教授し、安全・安楽・効果的な看護技術教育について検討する。</p> <p>⑳ 常盤文枝・⑥ 佐藤政枝/1回（共同） 慢性疾患患者の療養上の自己決定とその影響要因について教授し、自己決定を促す生活環境支援および、それに関連する看護基礎教育について討議する。</p> <p>⑩ 久保田富夫・⑥ 佐藤政枝/2回（共同） リハビリテーション（生活環境支援系）の専門領域の研究法を参考にして環境看護学について討議する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	リハビリテーション 症候障害論	<p>（概要）リハビリテーション学(理学療法学分野)において、運動器、中枢神経、呼吸、循環、代謝に関する症候学的かつ障害学的な連関を踏まえ、基礎科学と応用科学の知識を教授する。本科目は、各専門分野の教員が、各疾患に関連する臨床的課題と視点、病態の把握、臨床神経生理学・運動学的な評価、病気のメカニズムに基づく予防や対策、最新の研究動向などの観点から概説する。本科目は博士前期課程の「障害基礎解析学特論」「内部機能障害治療学特論」「運動機能解析学特論」の履修を基礎として学習を進める。（科目責任者：<u>5</u>高柳清美）</p> <p>【オムニバス方式 全15回】 <u>5</u>高柳清美・<u>19</u>金村尚彦/3回 運動器疾患に対するの運動障害に関わるのメカニズムおよび臨床症状、リハビリテーションの新たな知見について解説する。</p> <p><u>8</u>丸岡弘/3回 循環器疾患（虚血性心疾患と心不全）、呼吸器疾患（COPD）及び代謝疾患（糖尿病）の臨床的課題や視点を踏まえ、ガイドラインや疫学調査研究、予防対策、保健医療福祉分野における介入のあり方について概説する。</p> <p><u>6</u>星文彦/1回 中枢神経疾患による呼吸循環機能障害と臨床症状、呼吸循環機能障害を呈する主要な中枢神経疾患の運動制御と姿勢制御について、リハビリテーション医学の観点から概説する。</p> <p><u>6</u>星文彦・<u>17</u>西原賢/1回 中枢神経疾患の運動障害に関わる運動制御と姿勢制御についてリハビリテーション医学の観点から概説する。</p> <p><u>6</u>星文彦・<u>8</u>丸岡弘/1回 中枢神経疾患による呼吸循環機能障害のメカニズムおよび臨床症状について概説し、リハビリテーション医学の観点から概説する。</p> <p><u>7</u>原和彦・<u>8</u>丸岡弘/1回 循環・代謝疾患による切断や中枢神経疾患の運動麻痺に対する機能障害と義肢装具処方について最新の知見を基に討議する。</p> <p><u>7</u>原和彦・<u>6</u>星文彦/1回 切断や運動麻痺による運動機能障害への最新義肢装具の装着効果と運動学、運動力学的解析について概説する。</p> <p><u>17</u>西原賢・<u>5</u>高柳清美/2回 末梢神経・筋の電気生理学的解析法について解説し、筋活動、筋疲労、加齢の影響などに関する筋電図の特殊な波形処理法による客観的評価について教授する。</p> <p><u>17</u>西原賢・<u>19</u>金村尚彦/1回 加齢や廃用に対する神経機能障害について、最新の知見を踏まえ解説する。</p> <p><u>19</u>金村尚彦・<u>5</u>高柳清美/1回 加齢や様々な疾患に対する軟骨変性の病態と関節可動性の経時的変化について解説する。</p>	オムニバス・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	リハビリテーション行動神経論	<p>(概要) 本科目では、障害や疾病による生活障害成因を解明するための研究手法を解説し、行動神経学的手法から市民の健康に資する行動変容の研究の立案を行う。行動神経科学は、神経科学のうち、脳機能を行動科学的に研究する。その一方で、ヒトの心理のメカニズムを解明する心理学の側面を持つ。本科目は、この行動神経科学において解明されてきたヒトの行動のメカニズムを生物学的、特に神経学的基盤のもとに、リハビリテーションを必要とする患者の健康的な行動を支援する科学的根拠を追究する論の一つである。リハビリテーション行動神経論では、消化器心身症をモデル病態としたストレス仮説による病態行動の理解、地域高齢者の健康行動の理解、高次脳機能障害における病態行動の理解を深め、障害のある人たちを対象にした生活行動の改善策をリハビリテーションプログラムに反映させて行われる研究を解説する。</p> <p>(科目責任者：<u>9</u>濱口豊太)</p> <p>【共同 全15回】 <u>9</u>濱口豊太/7回 便秘異常と腹痛によってもたらされる生活行動障害について、脳機能と身体諸臓器の関係から解説する。消化器心身症に見られる排便行動、食行動、ストレス対処行動などの異常を健康行動へと導く方略を立てて演習を行う。</p> <p><u>9</u>濱口豊太・<u>18</u>中村裕美/4回) (共同) 地域高齢者ならびに障害者の生活スタイルと生活満足度に関する調査知見から、地域住民の保健に資する研究を指導する。</p> <p><u>9</u>濱口豊太・<u>23</u>石岡俊之/4回) (共同) 神経変性疾患における認知機能障害の概説および脳と認知機能の保健学分野への応用研究の見地から、認知機能障害によって引き起こされる行動の特性を分析し、これを保健に資する行動へ変容させるための方略を講義する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	健康長寿論	<p>（概要）高齢化の進むわが国においては、生活習慣病や精神疾患等の非感染症、介護が重要な問題となっているが、これらはいずれも予防が重要である。本科目では、健康長寿の実現に向けて、これらの疾患の危険因子の探索方法や予防プログラムの開発・評価方法について解説し、主として疫学的な観点から、長寿社会における健康に資する研究の立案を行える能力の獲得を目指す。本科目は博士前期課程の「健康福祉科学特論」の健康科学における行動科学理論の基礎を理解していることを前提として進める。（科目責任者：<u>10</u> 萱場一則）</p> <p>【オムニバス形式 全15回】 <u>10</u> 萱場一則/6回） 循環器疾患の危険因子とその探索、糖尿病とメタボリックシンドロームの危険因子とその探索、悪性新生物の危険因子とその探索について地域住民を対象としたコホート研究の成果をもとに、それぞれの危険因子の解説を行うとともに探索方法について説明する。</p> <p>⑭ 北島義典/7回） 地域高齢者における生活体力と予後との関係について解説し、高齢者の生活体力の測定と評価および生活体力維持増進プログラム開発の有効性について説明する。</p> <p><u>10</u> 萱場一則・⑭ 北島義典/2回）（共同） 地域住民を対象としたコホート研究および横断研究の成果をもとに、うつ病の危険因子の解説を行うとともに、その探索方法について説明する。</p>	オムニバス・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	長寿保健福祉システム論	<p>（概要）本講義は健康長寿の地域づくりを実現するために、現代の保健医療福祉の動向を踏まえ、進展しつつある研究と実践における課題を検討する。高齢社会における個人、家族、多様化する地域の福祉課題を、自立支援・関連する保健分野との連携と協働の視点からも捉えて課題克服に必要な、今日的ソーシャルワークと保健福祉システムについて教授する。（科目責任者：△12朝日雅也）</p> <p>【オムニバス方式 全15回】 △12朝日雅也・△11長友祐三/2回）（共同） 超高齢社会に向かいつつある今日、日本においても貧困と格差が広がっている。この現代における社会問題を長寿保健福祉システムの枠組みから捉え、包括的実践的なソーシャルワークの視点と方法論を教授する。</p> <p>△12朝日雅也/6回） 自立支援における就労支援に関する現状と課題、障害者就労の今日的意義、福祉から雇用への移行の強化、その現状と企業支援などを、国際的な動向も踏まえて課題の検討を行う。差別のない健康長寿の地域づくりに必要な政策的課題を検討する。</p> <p>△12朝日雅也・△13梅崎薫/5回）（共同） 地域における高齢者や障害者を包括的に支援するソーシャルワークの課題、介護保険制度、障害者支援制度にみられるわが国のケアマネジメントを取り上げ、地域包括ケアや市民団体の育成として地域活動におけるケアマネジメントとソーシャルワークの機能した状況に適切に対応するソーシャルワークのあり方について解説する。養護者からの高齢者虐待を取り上げ、被虐待対象となりやすい高齢者の特性を認知症、うつ、身体機能の低下など健康という観点から理解する。また、背景にある配偶者死別などのライフイベントとの関連を解説する。</p> <p>△11長友祐三/2回） 今般の生活保護法改正に伴う影響、新たに加えられた生活困窮者自立支援制度の運用を取り上げ、生活困窮者の自立支援問題を検討する。また、地域福祉計画を進めるには、地域の課題を特定し、地域福祉ニーズに的確に応えられる地域福祉計画の策定について検討する。</p>	オムニバス・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	次世代育成看護演習	<p>（概要）本演習は博士後期課程「次世代育成看護論」の履修を基礎として演習を進める。リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、子育て、子どもの健康など次世代育成期の健康問題について文献精読等により研究の動向と健康に対する課題を理解し、各自の研究課題を探求する。多角的に研究的方法論を修得し、さらに女性と家族を主体にした健康教育及び支援技術に焦点を当て、援助技術の開発に資する研究的方法を学び、自身の研究の方向性を明確にする。本演習は博士前期課程科目「看護学演習（リプロダクティブヘルス）」「看護学演習（小児看護）」において、リプロダクティブ・ヘルス/ライツへの支援、妊産婦の支援、子どもの健康支援、家族への支援などに関連する課題を明らかにし、その課題解決のための研究方法の基礎を修得していることを基盤とする。（科目責任者 ②鈴木幸子）</p> <p>【共同 全15回】 ②鈴木幸子・④大月恵理子・③添田啓子/1回）（共同） 博士後期課程の専門科目「次世代育成看護論」を基礎として、看護学研究の方法論について解説し、演習課題を設定する。</p> <p>②鈴木幸子/8回） 月経に関する思春期女性の保健行動に対するヘルスポモーション理論を概念枠組みとした研究法、避妊と性感染症予防支援のための育成プログラムと評価法について演習を行う。また、研究課題を明確化し、収集した文献により研究方法を決定、必要な研究計画書を作成させる。</p> <p>④大月恵理子・②鈴木幸子/4回）（共同） 母親役割獲得を促す家族看護、乳幼児をもつ家族への育児支援に関連する研究について解説し、メタ統合についての研究法、参加観察法や尺度、インタビュー結果など複合的に評価する方法について演習を行う。</p> <p>③添田啓子・②鈴木幸子/3回）（共同） 健康課題を有する子育て家族への健康支援法の方略を演習する。また、1型糖尿病をもつ子どもの療養行動が親から子どもに移行するプロセスの研究法を解説し慢性疾患を有する思春期の子どもと親への介入研究を演習する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	環境看護演習	<p>（概要）保健医療サービスのクライアントに対して「人間-環境系」の視点から「環境」を調整するという環境看護の支援介入について支援法と評価法を開発研究し、環境看護学の発展を目指した学問探求を行う。特に、療養環境の調整や、危機的環境移行を支える看護援助や、安全安楽を与える看護技術の開発、医療情報の管理・活用方法の改善など、環境を調整するという看護実践の発展を目指した学問探求を行う。 （科目責任者：⑥ 佐藤政枝）</p> <p>【共同 全15回】 ⑥ 佐藤政枝/7回 人間-環境系の理論に基づく環境調整のあり方と測定用具の開発及び評価についての理解を深める。さらに、医療情報の管理・活用に関する看護支援と評価について理解を深める。また、危機的環境移行のリスクの高い対象者とその家族の適応を支援する環境調整のあり方や測定の手法、測定用具の開発とそれらの評価について、演習により理解を深める。</p> <p>⑩ 久保田富夫・⑥ 佐藤政枝/2回（共同） 時間生物学の理論に基づく生活環境支援及びリハビリテーション支援について環境看護の視点を加えて最新研究の方法を演習する。</p> <p>⑳ 常盤文枝・⑥ 佐藤政枝/1回（共同） 慢性疾患患者の療養上の自己決定を支援する生活環境調整の実践とその評価について演習を通して理解を深める。</p> <p>④ 鈴木玲子・⑥ 佐藤政枝/2回（共同） クライアントを支援するための生活支援方法を工学的視点から検討し、支援のありかたについて演習を通して理解を深める。</p> <p>⑥ 佐藤政枝・④ 鈴木玲子・⑳ 常盤文枝/2回（共同） 環境看護学に関わる研究論文を通して、全院生と教員による討議を行う。</p> <p>⑥ 佐藤政枝・④ 鈴木玲子・⑩ 久保田富夫/1回（共同） 環境看護学・リハビリテーション学に関わる研究論文について研究論文批判を試み、問題提起を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	リハビリテーション症候障害演習	<p>（概要）リハビリテーション学(理学療法学分野)において、運動器、中枢神経、呼吸、循環、代謝に関する症候学的かつ障害学的な連関を踏まえ、基礎科学と応用科学の知識を教授する。本演習は、各専門分野の教員が、各疾患に関連する臨床的課題と視点、病態の把握、臨床神経生理学、運動学的な評価、組織・生化学、病気のメカニズムに基づく予防や対策、最新の研究動向などの観点から概説する。さらに、国際的研究に関する論文検索とレビューを通して自分自身の研究の方向性を明確にし、博士論文の研究へ導く。本演習は博士後期課程の専門科目「リハビリテーション症候障害論」の履修を基礎として演習を進める。（科目責任者：△5高柳清美）</p> <p>【オムニバス方式 全15回】 △5高柳清美/1回) 運動器疾患のバイオメカニクス・筋電図に関する研究論文の検索とレビューを通して研究論文批判を試みる。</p> <p>△5高柳清美・△19金村尚彦/2回）（共同） 運動器疾患の理学療法に関わる研究論文の検索とレビューを通して、。運動器疾患の理学療法に関わる研究論文の検索とレビューを通して、今日的解釈について討議する。</p> <p>△19金村尚彦・△5高柳清美/1回）（共同） 運動器疾患の運動障害に関する組織学、生化学分析に関する研究論文の検索とレビューを通して研究論文批判を試みる。</p> <p>△6星文彦/3回) 運動制御及び姿勢制御に関わる障害についてシステム理論、及び課題指向型アプローチの立場から運動学的事象を解析し、中枢神経疾患の運動障害に対するリハビリテーション医学の評価と治療の基盤について、文献抄読を含め議論する。</p> <p>△8丸岡弘/4回) 内部障害領域において、病理あるいは生理学的にその病態や発生機序、および理学療法における運動生理学や動態力学などの解析法、理学療法の治療効果などについて、文献抄読を含め議論する。</p> <p>△7原和彦/2回) 義肢装具装着の効果に関する研究論文の検索とレビューを通して研究論文批判を試みる。また、義肢装具装着の運動学的・運動力学的解析法を演習する。</p> <p>△17西原賢/2回) 運動を行う際の筋電図信号が発生する原理について生理学的観点に基づき学習し、筋電図測定のための運動内容について検討する。また、記録電極の装着方法、筋電計による波形データの記録・加工・解析方法などについても電気生理学的観点より演習を行う。</p>	オムニバス・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	リハビリテーション 行動神経演習	<p>（概要）本演習は障害や疾病による生活障害成因を解明するための研究手法を演習し、行動神経学の手法から市民の健康に資する行動変容の研究の立案を行い、実験の演習を行う。行動神経科学は、神経科学のうち、脳機能を行動科学的に研究する。その一方で、ヒトの心理のメカニズムを解明する心理学の側面を持つ。本科目は、この行動神経科学において解明されてきたヒトの行動のメカニズムを生物学的、特に神経学的基盤のもとに、リハビリテーションを必要とする患者の健康的な行動を追究するための演習科目である。リハビリテーション行動神経論では、消化器心身症をモデル病態としたストレス仮説による病態行動の支援法とその研究、地域高齢者の健康行動に関する調査研究、高次脳機能障害者に対するリハビリテーションについて、生活行動の改善策を評価・計画・検証する演習を行う。（科目責任者：⁹濱口豊太）</p> <p>【共同 全15回】 ⁹濱口豊太/5回） 便通異常と腹痛によってもたらされる生活行動障害について、脳機能と身体諸臓器の関係から解説する。消化器心身症に見られる排便行動、食行動、ストレス対処行動などの異常を健康行動へと導く方略を立てて演習を行う。</p> <p>⁹濱口豊太・¹⁸中村裕美/6回）（共同） 地域高齢者ならびに障害者の生活スタイルと生活満足度に関する調査知見から、地域住民の保健に資する研究を指導する。</p> <p>⁹濱口豊太・²³石岡俊之/4回）（共同） 神経変性疾患における認知機能障害の概説および脳と認知機能の保健学分野への応用研究の見地から、認知機能障害によって引き起こされる行動の特性を分析し、これを保健に資する行動へ変容させるための方略を立てて演習を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習 科目	健康長寿演習	<p>【共同 全15回】 \triangle10 萱場一則・$\textcircled{24}$ 北嶋義典）（共同） （概要）高齢化が進むわが国において、健康長寿の実現のためには生活習慣病と介護の予防が重要な課題である。本演習においては、特に疫学的な立場から、これらの疾病に関する危険因子の解明に関わる論文や予防プログラムの開発・評価についての論文を批判的に読み、長寿社会における健康に資する研究の立案を行える能力の獲得を目指す。本演習は博士前期課程の「保健福祉科学演習（行動科学因子）」および「保健福祉科学演習（健康福祉評価額）」を理解していることを前提として進める。（科目責任者：\triangle10 萱場一則）</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習 科目	長寿保健福祉システム 演習	<p>（概要）本演習は埼玉県を中心とした高齢者福祉や地域支援の動向を踏まえ、保健医療福祉など、さまざまな視点から、保健医療福祉の課題に関する実践的検討を行う。高齢疾患や障害を持つ個人のみならず、家族、地域住民も含めた、健康回復・維持・増進のための支援方法について、保健、医療、福祉の多職種との連携協働を視野に、実践・研究・施策行政の視点からサービスやプログラム提供のあり方、システム、支援方策の演習を通して学ぶ。博士前期課程の「ソーシャルワーク特論」および「健康福祉科学演習（ソーシャルワーク実践）」を基盤として、保健医療福祉領域のソーシャルワークと研究動向をふまえ、サービスやプログラム提供のあり方、システム、支援方策について学ぶ。（科目責任者 \triangle_{13} 梅崎薫）</p> <p>【共同 全15回】 \triangle_{13} 梅崎薫/5回 高齢者・障害者・家族サポートシステム、人権と正義、関係修復の新たな司法と哲学、高齢者と修復的正義の実際、高齢者の社会環境と福祉、トラウマ・クライアントへの援助と援助者、援助者における精神的健康と予防、高齢者の健康、ライフスタイルへの保健指導について議論する。</p> <p>\triangle_{13} 梅崎薫・\triangle_{12} 朝日雅也/1回（共同） 家族からの高齢者虐待を予防する早期把握と介入方法、再発を防ぐ家族支援体制の構築と社会システム整備について議論する。</p> <p>\triangle_{13} 梅崎薫・\triangle_{11} 長友祐三/1回（共同） 生活困窮者でもある高齢者と家族の場合を取り上げ、生活保護法改正に伴う影響、新たに加えられた生活困窮者自立支援制度の成果について議論する。</p> <p>\triangle_{12} 朝日雅也・\triangle_{11} 長友祐三・\triangle_{13} 梅崎薫/5回（共同） 高齢者と障害者のサポートシステムに着目したソーシャルワーク介入アプローチ方法、障害者雇用分野の地域における就労支援実践におけるケアマネジメントのシステムについて演習する。福祉福祉計画の策定では埼玉県内の具体的な市町村の福祉福祉計画を取り上げて、長寿保健福祉システムの観点から検証する。</p> <p>\triangle_{12} 朝日雅也・\triangle_{13} 梅崎薫/3回（共同） 高齢障害者の居住問題から地域生活支援、居住支援の在るべき方向性、それらを支える障害者施策全体の在り方について討議する。障害者雇用制度や社会的雇用、共同労働、労働者協同組合、ソーシャルファームといった多様な就労機会の福祉システムとしての支援策を計画する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	博士論文特別研究	<p>（概要）共通科目、専門科目、演習科目の履修を踏まえ、保健医療福祉学領域の研究課題を決定させ、関連論文の取集とその課題に適した研究方法を探索し、各種研究手法に基づくデータ収集と分析、考察を行い、博士論文作成に導く。博士論文としてまとめる作業を通して、保健医療福祉学における高度な知識や技術の集大成を図る。研究指導については指導教員の他、他領域の教員を含む複数の副指導教員により、院生は研究計画、研究実施、研究データ解析、研究発表、研究論文のまとめについて助言を受け、博士論文を作成する。</p> <p>*看護学領域に関する研究</p> <p>① 横山恵子) 精神保健医療福祉領域に関する理論や看護実践を踏まえ、看護学を発展させ社会に貢献する研究課題を設定し、その課題に適した研究方法を探索し、博士論文を作成する。</p> <p>② 鈴木幸子) 女性のヘルスプロモーション、月経、妊娠、性感染症などの女性のライフステージ各期に特徴的な健康問題および子どもの成長発達と親の役割に関する支援方法を開発するため、女性特有の健康問題とその看護実践の評価、開発へ向けた研究指導を行う。</p> <p>③ 添田啓子) 子どもと家族にとっての状況の意味をとらえて援助する小児看護の実践に関する研究、子どもの回復を促す看護、周手術期の看護、子どもと看護師の相互作用、小児看護教育、小児看護の継続教育、小児看護の臨床現場への理論導入などの課題について研究指導を行う。</p> <p>④ 大月恵理子) 周産期に生ずる家族の変化に適応するため、家族員それぞれの役割を調整し、円滑に役割獲得するための支援方法に関する研究、妊産婦と胎児・新生児に生ずる健康課題とその看護実践に関する研究などについて研究指導を行う。</p> <p>⑥ 佐藤政枝) 生活者の個別性を考慮した療養環境の調整と評価の方略として、対象者および家族の適応や環境移行を支援する環境調整、安全・安楽を与える時間と空間の調整技術、環境要因が生体におよぼす影響の解明等、環境看護学に関する研究課題を設定し、看護実践や看護理論、概念モデル等を用いた考究により、博士論文を指導する。</p> <p>④ 鈴木玲子) 安全で安楽な看護ケアを提供するために貢献できる看護技術習得や看護技術開発に対する研究、および教育理論に基づく看護基礎教育や卒後教育における教授方法の課題などの研究指導補助を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	博士論文特別研究	<p>*リハビリテーション学領域に関する研究</p> <p>△₅ 高柳清美) 関節運動の制動と運動による新鮮損傷靭帯の自然治癒の生物学的検証および神経・運動器協調トレーニングの運動学的効果検証などの研究課題に関して指導を行う。</p> <p>△₇ 原和彦) 生活環境支援理学療法研究に関連する質的、量的研究を指導する。主に生体工学的研究手法を基盤として身体運動機能と生活機能との関連、補装具、福祉用具の適合支援、福祉用具の生体適応に関する研究指導を行う。</p> <p>△₈ 丸岡弘) 内臓疾患系の理学療法について、病理あるいは生理学的にその病態や発生機序に関する研究指導を行う。ヒトまたは小動物を用い、運動などによる酸化ストレス防御系や自律神経、運動耐容能の評価などの運動生理学分野、筋血流速度などの動態力学的分野に関する研究指導を行う。</p> <p>△₉ 濱口豊太) 障害や疾病による生活障害成因を解明するための研究手法を解説する。生活行動の改善策をリハビリテーションプログラムに組み込んで行う研究を指導する。</p> <p>△₁₇ 西原賢) 日常生活に必要な運動の適切な検出手法によって得られたデータから、様々な分析を通じた運動解析について研究指導を行う。また、加齢や疾患が運動機能や健康に及ぼす影響について研究指導を行う。</p> <p>△₁₈ 中村裕美) 地域高齢者ならびに障害者の生活スタイルと生活満足度を解明するための研究手法を解説する。生活行動の改善策を、地域在住者を支援する地域サービスに組み込んで行う研究を指導する。</p> <p>△₁₉ 金村尚彦) 運動器や神経系障害における疾患や病態像やリハビリテーション介入における治療効果・検証に関し、組織学・生化学的手法による研究計画の立案、分析、解析方法について研究指導を行う。</p> <p>△₆ 星文彦) 中枢神経疾患における症候障害学の立場から病態運動学を解析基軸とした治療介入効果の検証を行い研究指導補助を進める。解析対象は主に運動制御及び姿勢制御について取り扱う。</p> <p>(10) 久保田富夫) 光環境変化におけるメラトニン・体温・客観的眠気などによる生体リズムの変化と適応、および高齢者に対する生活・睡眠環境調整に関して研究指導補助を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	博士論文特別研究	<p>△23 石岡俊之) 社会生活障害の成因となる機能障害の発現機序を解明するための研究手法を解説する。更に解明された発現機序を基に生活改善を目的としたリハビリテーション介入方法を開発し検証する研究を指導補助する。</p> <p>*健康福祉科学領域に関する研究</p> <p>△10 萱場一則) 保健医療福祉のあらゆる課題に対して、行動科学を基盤に疫学の手法を用いて問題解決の方策を探求する研究を実践し、博士論文作成の指導する。 そのために研究仮説の設定のための思考方法、文献検索、科学的推論と理論的説明の構築。研究実施のためのデータ収集、調査、解析、論文の執筆、投稿、査読への応答等の指導を通じて博士論文を作成する。</p> <p>△11 長友祐三) 保健医療福祉領域のソーシャルワークと研究動向をふまえ、高齢者・就労・生活困窮者支援等の調査研究技術を利用して、研究課題「貧困・生活困窮・社会的排除の問題とソーシャルワークに関する研究」を指導する。</p> <p>△12 朝日雅也) 福祉分野における今日的課題である就労支援を切り口に、障害者等を対象とした就労支援システム、具体的介入手法、支援対象等と企業等との相互支援システム等について、多様な研究手法を用いた研究の実施に向けた指導を行う。</p> <p>△14 伊藤善典) 医療・福祉・所得保障等の政策・制度や福祉国家の生成・発展について、社会・経済・政治状況等との関連を踏まえつつ、国際比較を含め、学際的観点から分析を行うための枠組みや研究手法に関して研究指導を行う。</p> <p>△15 延原弘章) 保健福祉に関わる調査技法と多変量解析を含む統計・推計学などのデータ解析技法を基礎にして、多様化する、地域における保健福祉のニーズの把握と、地域で実施される様々な保健福祉サービスの評価について、主として量的な面からの研究指導を行う。</p> <p>△16 原元彦) 保健医療福祉分野、特に神経内科学で用いられる、臨床神経生理学の知識と手技を基盤として、臨床神経生理学、電気診断学的な手法を用いた研究計画を立案し、研究課題に沿った適切な手法と分析、検証を行い、学位論文としてまとめるように指導する。 脊髄前角細胞の興奮性に与える種々の影響について、F波を用いて検討し、研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	博士論文特別研究	<p>(26) 田中健一) 神経情報処理機構を解剖生理学・病態生化学・臨床薬理学の研究手法を用いて検証し、高次脳機能に関連する症状・病態・疾患の分子機序を明らかにする研究を指導する。また、疾病予防と薬物等を用いた病態制御法を確立する研究について教授し、治療に応用し得る研究論文を指導する。</p> <p>△22) 佐藤 晋爾) 臨床精神医学の知識の範疇にあるものを、主に精神病理学的方法、観点から研究計画を立案し、研究課題に沿った適切な方法、考察を行い、学位論文としてまとめるように指導する。主に、統合失調症、うつ病、認知症の症候学や精神病理学的背景について検討し、研究指導を行う。</p> <p>△13) 梅崎薫) ソーシャルワーク実践において、個人と家族、小集団、またこれらを取り巻く社会環境との関係性などを意識し、より専門性の高い実践につなげるために、対象を理解する分析枠組みやそれに関する理論、研究手法に関して研究指導補助を行う。</p>	